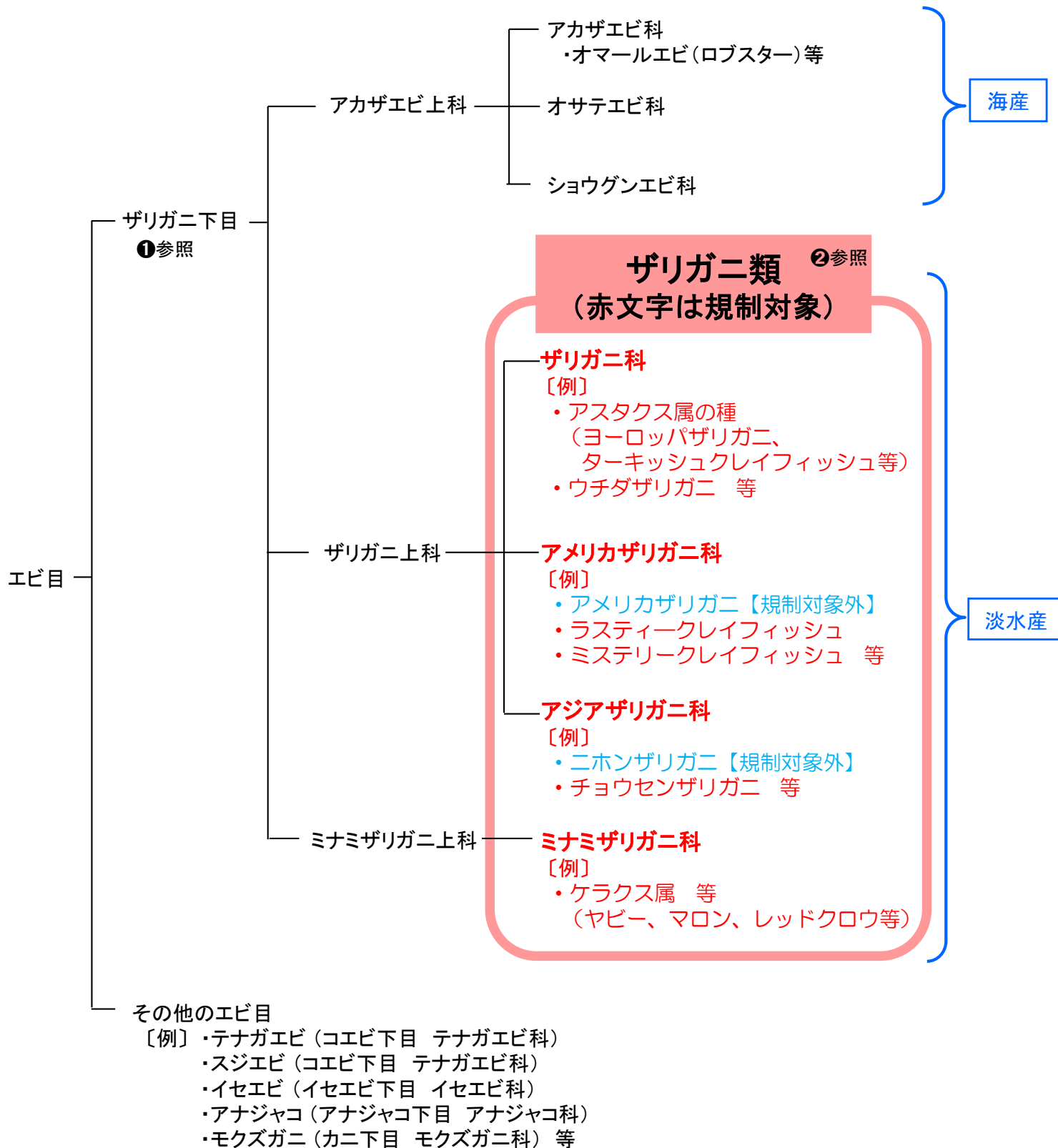


ザリガニ類について

本マニュアルで用いる「ザリガニ類」とは、エビ目ザリガニ下目のザリガニ上科とミナミザリガニ上科に含まれる種とする。ザリガニ上科にはザリガニ科、アメリカザリガニ科、アジアザリガニ科^注の3科が、ミナミザリガニ上科にはミナミザリガニ科のみが含まれる。

^注アジアザリガニ科は、従来アメリカザリガニ科のアジアザリガニ属とされていたものが独立して新設された科



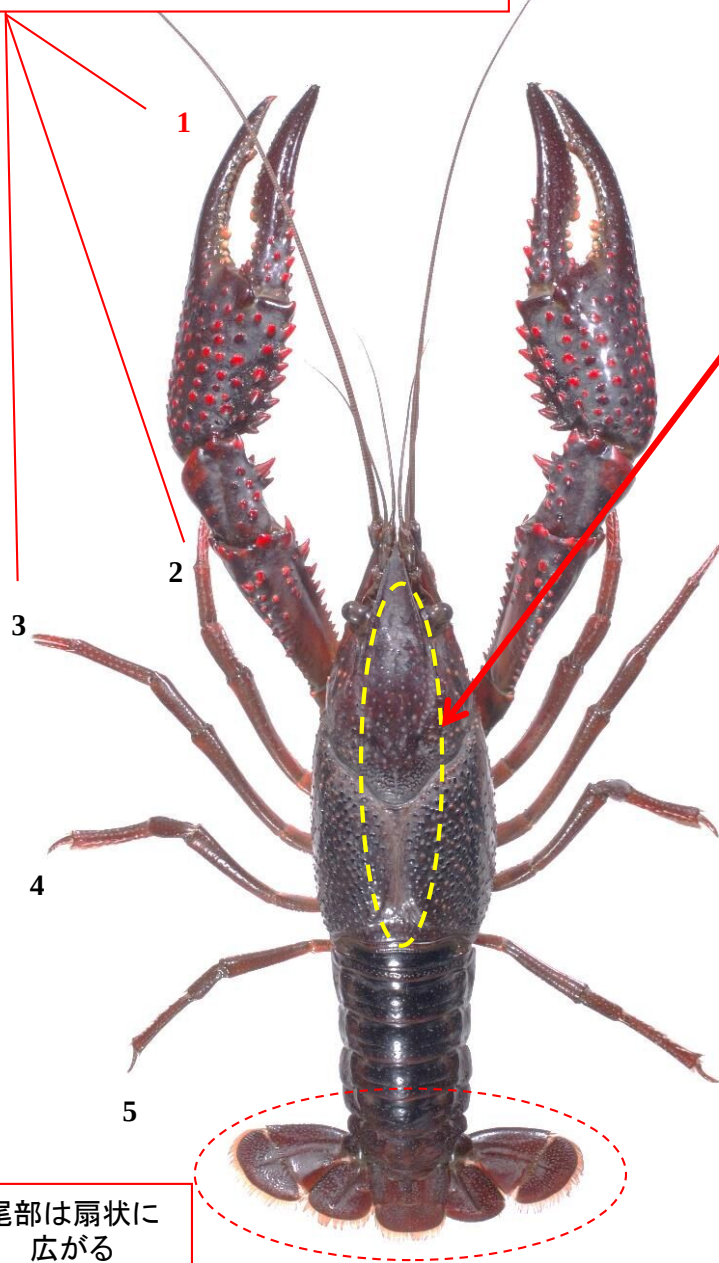
①ザリガニ下目の特徴

- ・ザリガニ下目の脚は5対10本。このうち前の3対が二叉状のハサミとなり、特に一番前の1対は他と比べて大きなハサミになる。尾部は扇状に広がる。

②ザリガニ類の特徴

- ・ザリガニ類は全て淡水産である。一方、同じザリガニ下目に属する他の科(アカザエビ科、オサテエビ科、ショウゲンエビ科)の種は全て海産である。
- ・ザリガニ下目のうち、海産種(オマールエビ等)には頭胸甲正中部に後縁から額角の根元にかけて縫合線、隆起又はトゲの列があるが、ザリガニ類にはこれらが無い。

前の3対の脚がハサミになる。
特に一番前の脚は強大なハサミになる。

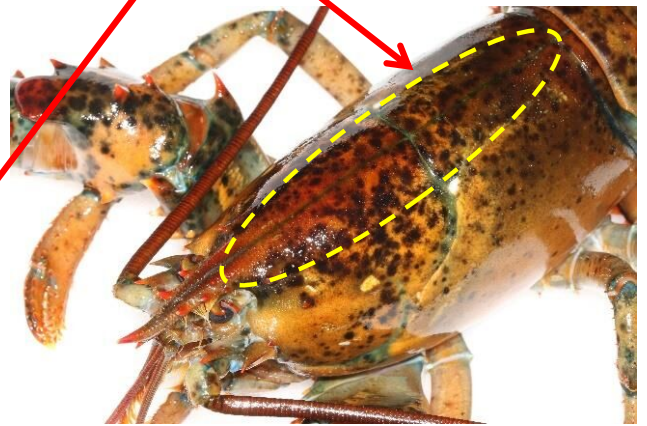


尾部は扇状に
広がる

アメリカザリガニ

写真は全て©JWRC

オマールエビ等の海産種は、頭胸甲正中部に
後縁から触角の根元にかけて、縫合線、隆起
又はトゲの列がある。
ザリガニ類にはこれらが無い。



オマールエビ(アカザエビ科)の頭胸甲

【参考】

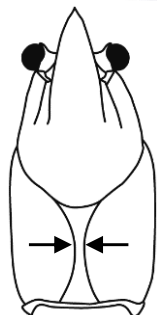
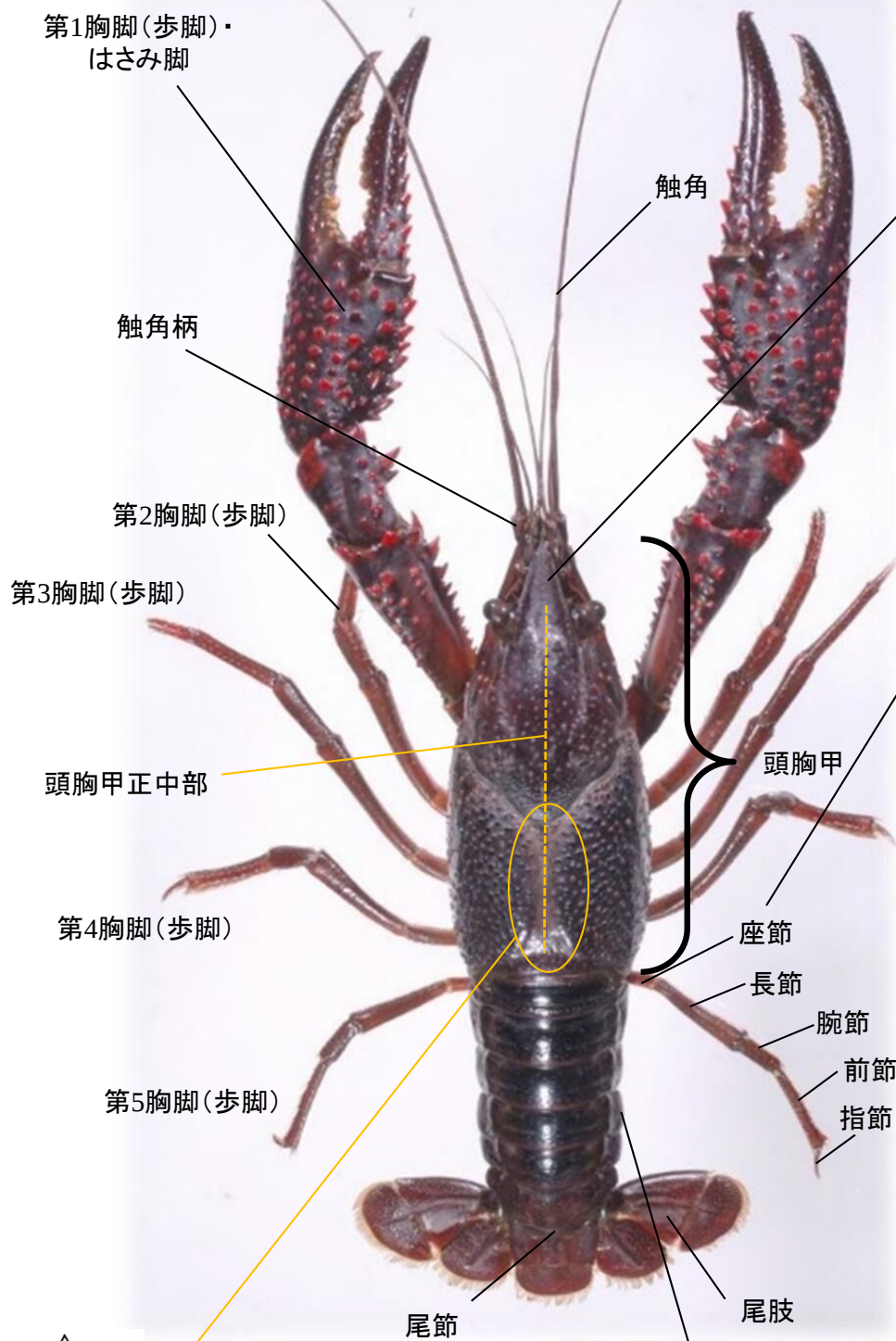


テナガエビでは、
前から2番目の
脚が大きくなる。

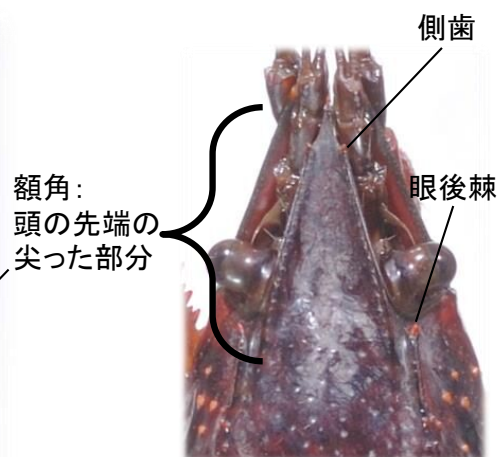
テナガエビ(テナガエビ科)

ザリガニ類の各部の名称

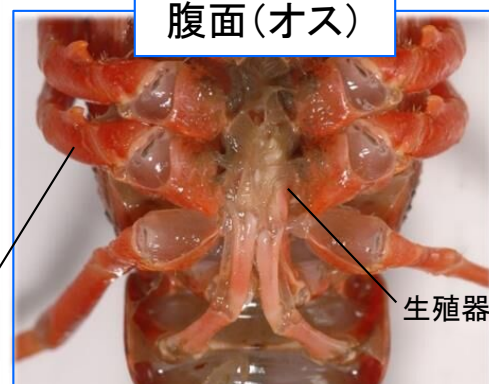
背面



Areola:
左のイラストの矢印の2本の線の間隙をAreolaという。左のイラストではこの2本の線は離れている(Areolaは開く)が、上の写真では接している(Areolaは閉じる)。

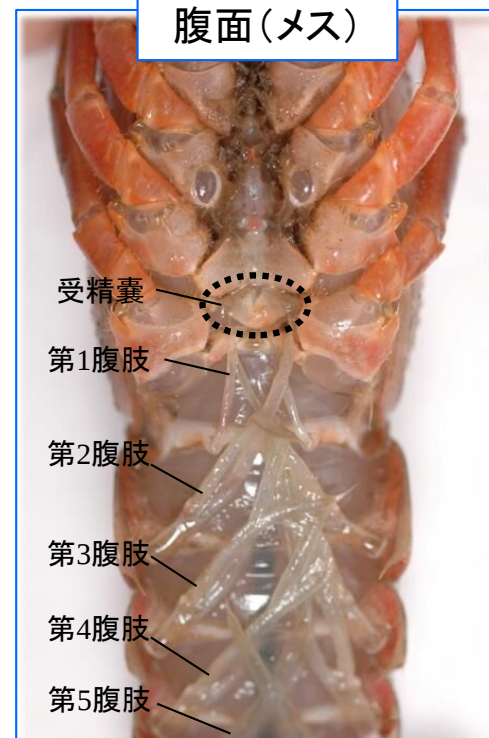


腹面(オス)

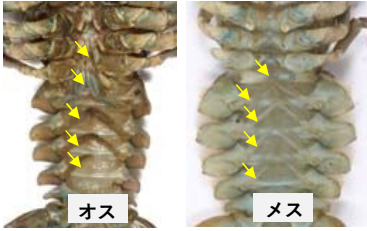
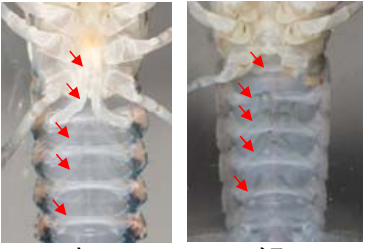


オスの第1腹肢は生殖器になるものが多い

腹面(メス)



ザリガニ類4科の識別点

		オス・メス共通	オス		メス
		腹肢	生殖器	歩脚の座節の突起	受精嚢
ザリガニ上科	ザリガニ科	・腹肢は5対 (ただし、メスの第1腹肢は小さくて分かり難いか、無い場合がある)  オス メス	第1腹肢が棒状の生殖器となる。 先端の構造は単純。 チューブ状で棘はない。  生殖器先端	突起無し 	無し 
	アメリカザリガニ科	・腹肢は5対 (ただし、メスの第1腹肢は小さくて分かり難いか、無い場合がある)  オス メス	第1腹肢が棒状の生殖器となる。 先端の構造は複雑。刃状に角質化した尾部突起を持たない。  生殖器先端	鉤状の突起がある 	袋状で深い溝を持つ 
	アジアザリガニ科	・腹肢は5対 (ただし、メスの第1腹肢は小さくて分かり難いか、無い場合がある)  オス メス	第1腹肢が棒状の生殖器となる。 先端の構造は複雑。刃状に角質化した尾部突起を持つ。  生殖器先端	丸い突起がある 	浅い窪み 
	ミナミザリガニ科	・腹肢は4対 ・第1腹肢は無い  オス メス	一番後ろの歩脚の付け根に生殖器の突起がある。 	突起無し 	無し 

ザリガニ科

分類:エビ目 ザリガニ上科 ザリガニ科

学名: Astacidae (4属26種・亜種)
英名: -
和名: ザリガニ科

未判定外来生物:なし

種類名証明書添付生物:ザリガニ科の全種

原産地と分布: 中央アジアからヨーロッパとアメリカ合衆国北西部及びカナダ南西部原産。ヨーロッパザリガニ (*Astacus astacus*) はイギリスやスペインなどのヨーロッパ各地の非自然分布域の他、アフリカのマロココで侵入が確認されている。同属のターキッシュクレイフィッシュ (*A. leptodactylus*) もヨーロッパの非自然分布域の広域で侵入が確認されている。ウチダザリガニ (*Pacifastacus leniusculus*) は日本とヨーロッパの広域に移入され、定着している。国内には1900年代前半に水産資源として導入され、2020年時点では北海道、福島県、長野県、福井県、滋賀県に分布するほか、宮城県、新潟県、栃木県、千葉県でも確認されている。

形態的特徴: ターキッシュクレイフィッシュは体長20cm程度、ウチダザリガニは体長15cm程度、*Austropotamobius pallipes* は体長12cm程度と大型になる。雌雄ともに腹肢は5対。オスの第1腹肢は生殖器となり、その構造は単純なチューブ状で、刺を持たない。またメスは受精嚢を持たない。これに対しアメリカザリガニ科とアジアザリガニ科では、オスは生殖器の先端が複雑な構造をしており、歩脚の座節に突起を持つこと、メスは受精嚢(又はそれに類する窪み)を持つことで区別される。なお、ミナミザリガニ科は雌雄共に第1腹肢を欠き、腹肢が4対である点で区別される。ただし、いずれも幼体の場合の識別は困難。

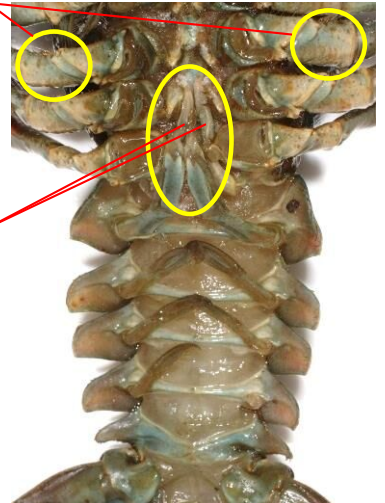


ウチダザリガニ *Pacifastacus leniusculus*

写真は全て©JWRC

オスの歩脚の座節に突起は無い

オスの第1腹肢は棒状の生殖器になる。先端の構造は単純

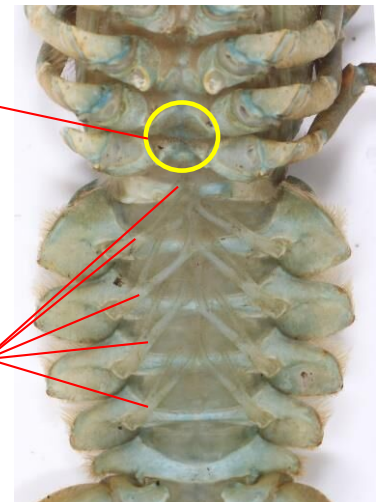


オス腹面

受精嚢を欠く



雄雌共に腹肢は5対。ただし、メスの第1腹肢は小さくて分かり難いか、無いことがある。



メス腹面